

1-05 盲目のシングルスカラー

●本件は、row2kのウェブサイトにて2004に掲載されたものです。

www.row2k.com/features/features.cfm?action=read&ID=8

視覚障害者のためのロウイング・プログラムにおける、女性2人の漕艇体験の紹介です。ガイドの助けを借りながらも、一人でシングルを漕ぐすばらしさを紹介します。（抜粋。全文訳は、ボートライフNo. 187/太田川BC, 2004. 11にあります）

視覚障害のオアズウーマン、一人で漕ぐ Visually Impaired Rowers Row It Alone

タミー・スワイアンテク、リネット・ルイス ペンシルバニア州・ピッツバーグ2002

■タミー： 私はTRRAで、BOLD(視覚障害者野外レジャー開発)のロウイング・プログラムで11年間以上、スカルを漕いできました。生まれつき目が見えなかったため、ボートを一人で漕ぐ感触一何か安定させるか舵をとるような道具なしでのボートの上での感じを味わうことはたぶんないだろうという事実を、普通に受け入れていました。／私はそう納得していました。6月16日土曜日のその朝までは！ その曇り空の朝、私はオルデンのシングルにすわり、左手を棧橋にかけ、右手でオールを、まるで、それが命綱であるかのように、ぎゅっと握っていました。…ボートを押し出し、右舷のオールの下にあるものが、棧橋の木から水に代わったのを感じたとき、私の心臓の鼓動は、どんなストロークより速く高鳴りました。

●しばらく、私は棧橋につながれた状態でボートに座り、バランスと、オールのコントロールを試しました。どんな生き物でも、モーターボートでも、水の上ならゆらゆらするものなのに、水に浮かんだオルデンは、バスタブに似て、ほとんどぐらついたり弾んだりできそうにありませんでした。しかし、どういうわけか、ひっくり返るかと恐れながら、オールを上げそっとフォワードしながら漕いだ最初のストロークでは、ボートは、私が漕いだ最もスマートな競漕用ダブルスカルと比較しても、水面にかろうじてバランスをとっている剃刀の刃のように感じられました。／ついに、その瞬間はやってきました！ - ボートを前に押し出し、ロープは放されました。「私は自由だわ！」

●親子連れのアヒルのように、パティと私は、水路の狭い出口の方へ楽にさかのぼっていききました。最初のひと漕ぎでボートはひっくり返らず、興奮した微笑が私の顔に広がります。後ろで聞こえるパティの声もそんなに遠くなく、私がダブルスカルで整調を漕いだときの、多くのパートナーの声に劣らず、私を支えてくれました。右舷のすぐそばを、別のボートを通過させるために止まったときは、神経質な緊張が大気を切断しました。しかし何事も無くこの状況を切り抜けたと知ったとき、私の心は天にも昇る気持ちでした。それからすぐに、私たちは一方のオールを少しだけ引きずりながら狭いところを抜け…

●…私が棧橋を離れるとき、もし私に絶対できないことがひとつあるとすれば、それは、棧橋に十分近くまで引き返すことでした。今、そのプレッシャーがのしかかってきました！ しかし—私たちは、私が初心者としてダブルスカルで数回漕いだときよりももっとすばやく簡単に、着岸しました。こうして、決して忘れることの無い、そしていつの日かまたやってみたい冒険が終わりました。

■リネット： …しかし、時々、自分のオールがスクウェアなのか、フェザーなのか、あるいは裏返しか、分からなくなってしまうことがあります。／…パートは、水上では、声を出しすぎてはいけないこと、静かにしておかなければならないと説きました。

…